

随筆

## メキシコ駐在記

松浪 淳雄

### 1. はじめに

私は、2006年7月から2010年12月と2015年1月から2017年3月までの2回にわたりメキシコシティへ駐在しました。1回目がKYB Latinoamerica, S. A. de C. V. (以下KLA)、2回目がKYB Mexicoメキシコシティ支店 (以下KMEX-DF)。KLA及びKMEX-DFはメキシコシティに所在し、メキシコ以南の中南米をカバーするオートモーティブコンポーネンツ事業本部の市販ショックアブソーバ販売拠点です。妻と子供2人 (次女はメキシコ生まれ、現在、日墨両方の国籍保有) の家族帯同での駐在でした。通算7年弱の駐在を通じて家族と共に貴重な経験をさせて頂いたので、ここにその一部を紹介したいと思います。

### 2. メキシコ生活

メキシコシティはメキシコ合衆国 (合衆国は世界でアメリカとメキシコの2国のみ) の首都で、地理的には国土のほぼ中心に位置します。

気候は標高約2,300mにあることもあり、世間一般のイメージとは異なって年間を通じて気温は温暖で、且つ湿度が低く、非常に過ごし易い街です。

一方、盆地であることから空気の流れが悪いため、過去に比べると改善されていますが、依然として大気汚染は深刻な問題です。

人口は首都圏を含めると約2,000万人を超える大都市で、住んでいる日本人 (駐在含む) は約3,000人。最近は日系企業の進出が自動車産業を中心に非常に増えており、在留邦人数は更に増えています。

そのお蔭もあってか、クオリティの高い日本人向けの飲食店が増えており、日本食材店もあります。

また当然ながら、メキシコ料理をはじめ、スペイン料理、フランス料理、アルゼンチン料理などの美味しいレストランもたくさんあり、食生活は恵まれています。ただし、露店などのタコスを食べると食中毒になる危険性があるので、注意が必要です。

ちなみに、メキシコ人もその辺りを考えてか、信

頼のおける行きつけのタコス屋さんを幾つか持っており、時として『俺のオススメの角のタコス屋は最高だ!』『いや、俺のオススメの方が美味しい』等、どうしても良いタコス自慢に付き合わされることもしばしばです (写真1, 2)。



写真1 タコス屋



写真2 タコス

子供は2人とも日本人学校に通わせていました。同学校は1977年に田中角栄首相 (当時) 訪問の際の

共同声明の趣旨に従い、日本政府・在留邦人・日系企業の援助を得て設立されました。同じ敷地に日本人コースとメキシコ人コースと一緒に学ぶ、世界でも珍しい日本人学校です。

メキシコシティの交通事情は、お世辞にも褒めたものではありません。まず交通手段として、クルマ、地下鉄、バスがありますが、安全面や利便性からクルマ移動が基本となります。前述の公共交通機関はスリや強盗に遭うリスクが高いためです。しかし、残念ながらクルマの運転については、メキシコにはそもそも自動車運転免許証の試験が筆記・実技ともにありません（厳密に言うと、過去はあったが廃止された）。そのせいかどうかはわかりませんが、日中の街中は渋滞が慢性化しています（写真3）。ようやく最近、免許試験制度復活の声があがっていますが、早期の復活を切に願っています。

また、タクシーもあります。これもまたハードルが高い交通機関です。大きく分けて『シティオ』という無線タクシーと、『リブレ』という流しタクシーがあります。前者は会社に属したタクシーなので比較的信頼性は高いのですが、後者は無認可のものも多くあるため、安全面でのリスクが高く、犯罪に巻き込まれる可能性があります。最近ではUBER社に代表される配車アプリによるタクシーサービスもありますが、既存タクシーとの軋轢や、安全面の課題があります。

このように交通事情の悪さはある意味メキシコシティの名物ですが、日々深刻の度合いは増しており、何らかの対策を講じて欲しいものです。



写真3 渋滞

### 3. メキシコでの業務～思い出

メキシコでの業務は市販用ショックアブソーバをメキシコ以南の中南米へ販売するというもので、テリトリーとしては非常に広範囲をケアする必要がありました。地図で見るとメキシコからチリやペルーへ行くのは近く見えますが、いざ行くとすると、チリの場合で約10時間のフライトとなり（東京からロスアンゼルスに行くのと変わらない）、これが結構疲れます。

また、1回目の駐在で印象に残っているのは、2009年に流行した新型インフルエンザ（当時、豚インフルエンザと言われていた）に直撃したことです。コルドバ保健相（当時）が新型インフルとして報じた事をきっかけに世界中で一気に社会問題となりました。報道直後から日本をはじめたくさん問い合わせが入ったり、感染予防マスクが届いたり大変でした。日本やアメリカへ一時避難をするかなど、色々な検討をしたことは今でも鮮明に覚えています。最終的に家族は日本へ一時帰国させることになりました。

その時、興味深かったのが、日本人とメキシコ人の対応の差です。メキシコ人も流行当初はマスクをしていたのですが、1週間もすれば、マスクを外していました。これぞ底抜けに陽気な彼等のなせる業かと思知らされました。

次に2回目の思い出ですが、2011年のマツダ様（株）様のメキシコ進出を皮切りに自動車産業への投資が一気に拡大したことです。当社も2012年にグアナフアト州・シラオ市にKMEXシラオ工場を設立しました。BRICsに次ぐNEXT 11のメンバーであるメキシコが経済的に成長を始めていくダイナミズムを直接、肌で感じる事ができたのは貴重な体験でした。

### 4. テキーラ

メキシコを語る上で外せないのがテキーラ（写真4）です。ご存知の通り、アルコール度数が約40度もあるメキシコを代表するハードリカーで、アガベというリュウゼツランを原材料とした蒸留酒です。日本では勢いに任せてショットガンで飲んで、二日酔い！という様なイメージがあるかもしれませんが、レモンジュースやトマトジュースをチェイサーにちびちびと飲む方法もあります。またグレードもたくさんあって非常に楽しめるお酒で、古くはアステカ時代にルーツを持ち、ハリスコ州で造られるものがテキーラと呼ばれます。テキーラの古い製造施設（日本でも有名なホセ・クエルボ社）はユネスコ世界遺産に登録されています。

ちなみに、先述の製造施設までは列車で行くこと

ができます。その名も『テキーラ・エクスプレス』。駅に着くなりマリアッチ<sup>注1)</sup>(写真5)が迎えてくれ、列車の中ではテキーラが振る舞われるというもので、世界遺産へ着くころにすっかり出来上がっているという、とってもご機嫌な乗り物です。

注1) メキシコ音楽を演奏する楽団



写真4 テキーラ



写真5 マリアッチ

## 5. 世界遺産

その他にもメキシコには世界遺産がたくさんあり、メキシコシティ近郊ではピラミッドが有名です。『テオティワカン』と呼ばれる紀元前に存在したテオティワカン文明の中心となった宗教都市遺跡で、太陽のピラミッド(写真6)と月のピラミッド(写真7)と呼ばれる2つのピラミッドがあります。太陽

のピラミッドは今でも頂上まで登ることができ、頂上からの眺めは壮観です。



写真6 太陽のピラミッド, 長女



写真7 月のピラミッドからの眺め

## 6. ビーチ

メキシコはカリブ海と太平洋に面しており、非常に綺麗なビーチでも有名です。中でも、カリブ海側

のカンクン（写真8）は世界中から観光客が集まるホットスポットで、バケーションを過ごすには持って来いの場所です。



写真8 カンクン

もう一方の太平洋側にも、ロスカボスやアカプルコといった有名なビーチがあります。また1月～3月にかけては繁殖と子育てでクジラがやってくるので、ホエールウォッチング（写真9）でも有名なエリアです。



写真9 ホエールウォッチング

## 7. おわりに

メキシコで一緒に仕事をした駐在員、ローカルスタッフ、そして家族のおかげで駐在を全うできました。紙面を借りて感謝とお礼を申し上げます。

Gracias a todo el apoyo que me han brindado mis companeros de trabajo y mi familia, pude cumplir con el reto que yo tenia en Mexico. Muchas gracias por todo!

仕事の上でも、自分自身の人生においても、とても貴重な体験をさせて頂きました。

## 著者



松浪 淳雄

2005年入社。オートモーティブコンポーネンツ事業本部グローバル事業統轄部営業企画部専任課長。市販営業、名古屋支店営業、メキシコ駐在を経て現職。